

市民と議会

つ な が る

健康福祉常任委員会

多摩市
シルバー人材センター

今回は、都内においても改革が著しく進む「多摩市シルバー人材センターの現状」についてお話を伺ってまいりました。

多摩市シルバー人材センター に聞きました



前列左から、池田けい子副委員長、藤原委員長、稲垣理事長、河内専務理事、
後列左から、折戸委員、池田桂委員、藤條委員、安宅常務理事兼事務局長、きりき委員、しのづか委員

都内でも顕著な取組みをすすめています！

健康福祉常任委員会（以下、健康福祉）：会員数の伸びが東京都内で2番目に増えていますね。

シルバー：都内58あるセンター中、第2位で、伸び率も7.9%。会員数も現在では1,500名です。（女性会員の比率は36.6%で、全国平均の35%を上回っている）。会員が増えた分、新たな仕事も増やす必要があり、新規開拓部隊を編成し、市内の優良企業に営業活動を行っています。

健康福祉：多摩市シルバー人材センターには「経営理念」がありますね。

シルバー：全国で経営理念を掲げたセンターは初めてだと思います。きちんとした組織を作るには、企業経営的な要素も取り入れて理念を掲げる必要があると思っています。

健康福祉：仕事先はどのようなところが増えているのですか。

シルバー：スーパーや保育園、お掃除関係などですが、昨年「ベネッセビジネスメイト」と「地域共同サービスに関する包括連携協定」をむすび、高齢者と障がい者の協働という新たなチャレンジを始めました。これは、全国に先駆けてのことです。

時代の変化に即した対応も入念です！

健康福祉：DXへの取組みも進んでいると伺っていますが。

シルバー：事務局のグループウェア、ペーパーレス化、リモートワークツールを取り入れ、デジタル出勤システムで給与管理まで行っています。会員リーダーには、スマホを貸与して、常にセンターとの情報交換を行い、事故などを未然に防ぐ対応を心がけています。

健康福祉：インボイス制度が始まりましたが、影響は？

シルバー：5年後には会員の分の消費税をすべてセンターが肩代わりをするため、約3,800万円の負担となります。今後は、3者包括契約などを視野に入れた見直しを考えています。



新しいロールモデルの創出をめざして

健康福祉：多摩市シルバー人材センターのこれからの展望は？

シルバー：内部的には働きやすい職場環境の推進などのほか、会員に対しては、個々人が持つ技能をもっと生かせる仕事を増やし、生きがいと学ぶ機会に出会えるような、魅力あるロールモデルを発信して参りたいと思います。

